

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102626		
法人名	有限会社 そよ風		
事業所名	グループホーム そよの里		
所在地	香川県高松市多肥上町504番地2		
自己評価作成日	平成27年6月10日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3770102626-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成27年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとり個々のサービスを提供し、生きがいや達成感を見出せる支援を目指している。また、地域の方との関わりを大切にする為、ボランティアの訪問活動や、近隣の行事に積極的に参加して地域密着に根ざした働きかけを行っている。

事業所は静かな環境で、庭で野菜づくりやガーデニングが行われている。利用者の部屋からも眺められるようになっており、利用者から喜ばれている。利用者を中心に考え、職員がお互いに意見を出し合い、より良い介護が提供できるよう、日々工夫されている。利用者は穏やかな表情で、落ち着いて生活できている。職員は、常に利用者の行動に留意し、素早く対応できるよう心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が意識しあっている。また、一人ひとり目標を持って、理想に近づけるよう、努力している。 理念「①思いやりとやさしさ②安心と安らぎ③信頼と助け合い④地域とともに歩む・⑤笑顔とあいさつ」を掲げている。	事業所独自の理念「思いやりとやさしさ、安心と安らぎ、信頼と助け合い、地域と共に歩む、笑顔とあいさつ」を掲げ、その理念にそって全体の調和を考えながら、利用者の個々のニーズに応じた支援を行っている。家族からも信頼されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事の参加や、ボランティアの慰問などを定期的に行い、利用者が、社会の一部として関わっていきけるよう工夫している。	自治会の行事へ積極的に参加をしている。ボランティアの慰問等も定期的に受け入れており、利用者が地域の一員として交流ができるよう努めている。利用者が喜ばれたボランティア活動は、再度の訪問をボランティアに依頼をして、利用者及び家族から喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の見学を受け入れたり、認知症サポーター養成講座を積極的に受けたりし、認知症についての知識を高めたり、周りに発信したりできるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、事業所内での活動や、職員の動向などを報告し、アドバイスや助言をいただき、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は行政関係職員や自治会代表の参加のもと、2か月に一度開催している。利用者が地域とつながりながら暮らせるよう、運営体制について関係機関に相談し、助言や協力を得て、サービス向上を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域社会と連携を図りながら、情報交換会に参加して、情報の共有を行ったり、行政機関に出向き、関係作りを築いている。	積極的に行政主催の会議や行事に参加するほか、必要に応じて訪問し、相談や情報共有を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず拘束が必要な際は、ご家族と話し合い、同意を得て、身体拘束委員会で議論し、計画を立てたうえで実施している。	職員は、法人内外の研修を通して、拘束に関して理解を深めている。介護記録や連絡ノート、日頃からの観察から、利用者一人ひとりのリスクの把握に努めている。言葉の拘束に関しても、気づいた時は、すぐに管理者が職員と話し合い、職員が理解できるように努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から勉強会などを開催し、職員が意見を述べ合える場を設け、虐待防止できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や、後見制度について、学ぶ時間を設け、活用のアドバイスができるよう、努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用する本人、ご家族に十分な説明を行い、双方で、納得した上で契約に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、苦情の窓口を設けたりし、いつでも利用者やご家族が、自由に意見や要望を表わせる様工夫している。	意見箱を設置している。家族の面会時に、担当職員が家族の話聞き、意見や要望の把握に努め、利用者への支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体で会議を開催したり、管理者同士の会議を開催したり、職員の希望や提案、意見を出し合い、運営に反映させる場を設けている。	施設全体会議、管理者会議、グループミーティング、ミーティング等での職員の意見を活かし、利用者への配慮、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面接を行ったり、職員が働きやすい環境を整えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加し、スキルアップを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換会や、研修の参加などで同業者と意見を交わしたりすることで、相互関係を築き、サービスの向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者個々の意向や求めていることをすばやくキャッチし、サービスに反映していけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている不安感、心配事を払拭できるよう、しっかり傾聴しケアの実現に近付けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを把握し、目配り、気配り、心配りを常に意識し、その人に必要なサービスを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに生活するということを念頭におき不安や心配事をできる限り取り除いていけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族訪問の際に近況や施設での問題ごとなどを報告し、情報を共有することで施設、ご家族双方で支えあうことを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人など大切な方との関わりが継続していけるよう支援している。また、馴染みの場所など本人が大切に思える場所をいつまでも大切に感じられるよう、働きかけている。	家族や知人との関係を密にするため、面会時間を大切にしている。美容室等の馴染みの場所へ出かけられるよう、家族の協力が得たり、家族等との関係が途切れないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中に入り間接的な援助をする事で、利用者同士の信頼関係やコミュニケーションを築くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が完結しても機会があれば、立ち寄っていただけたり、また、相談に乗ったりできる関係を築けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要求を尊重し、可能な限り希望に沿えるよう努めている。	職員は、受持ち制であり、利用者への支援を行う際の会話、身振り、表情の中から、利用者の思いや意向を捉えるよう努めている。把握した思いや意向は、連絡ノート等を利用し、職員間で共有し、利用者への支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、又ご家族から情報を仕入れ、これまでの生活を大切にできるよう、その方に合ったサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過去の生活リズムを基準と考え、一人ひとりがその方らしく過ごせるよう工夫している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、介護支援専門員、介護者、看護師などケアに携わるメンバーで担当者会議を開催するなどし、さまざまな意見が反映される時間を設けている。	定期的に計画の見直しを行っている。利用者の状況で必要があれば随時、計画の見直しを行っている。介護支援専門員、関係職員、家族などの担当者会議で意見交換しながら、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの、生活や、普段の様子、会話や体調面、精神面での変化を細かく記録し、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズを理解し、その方に合った適切なケアが提供できるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	屋外に出かけたり、地域の行事に積極的に参加するなど社会との関わりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診を受け、適切な投薬や治療を行い利用者の健康管理に努めている。	かかりつけ医による週1回往診があり、適切な医療が提供されている。通院の必要性がある場合には、家族の協力を得て対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時の診察の記録、医師からの指示事項など、看護職員を通じて伝達し、職員全員が統一した対応が取れるよう、マニュアル化している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関や地域連携室との情報交換に努めている。また、関係者が訪問し、本人の状態を把握しながら、早期退院に向けた話し合いも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族の意向を聞き、その意見が反映されるよう、終末期について話し合っている。	入居時に利用者、家族の意向を聞き、利用者の状態に応じた方針を決めている。地域の関係者と連携を取りながら、支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて、知識を高める為に、教育委員会や感染予防委員会を中心に勉強会を行っている。また、マニュアルを作り職員皆が統一した対応が取れるよう備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアル(火災)作成、災害時の連絡網を整備している。年に2回定期的な訓練を行い、消防局の方からアドバイスや助言をいただき緊急時に備えている。	年に2回の防火訓練を行い、消防署から指導を受けている。各職員も目標を持ち取り組んでいる。委員会を設置し、月1回勉強会を行っている。また、防火訓練には、地域住民にも参加を呼びかけている。	災害対策が火災への対応が中心となっているので、地震や水害を想定した避難訓練やマニュアル作成などの災害対策を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮しながら、適した声かけや対応を行っている。	職員に対して、利用者が人生の先輩であることを認識し、プライバシーに配慮しながら、一人ひとりの人格や尊厳を損ねない言葉かけや対応を行うよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択を優先し、困難な利用者には、思いを引き出せる働きかけを行い自己決定に近づけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを基準にし、ゆったりと過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由におしゃれを楽しんだり、個々が思う身だしなみが出来たり、職員側の意見を優先させず、本人が楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の美味しさや、皆と食べる楽しさを常に味わってもらえるよう、職員も食事の時間を共有している。また、味付けや盛り付けなども工夫している。利用者の好みや希望への対応として、外食や惣菜の購入も行っている。	重度化していることもあり、調理が可能な利用者はいないが、利用者が可能な範囲内で協力をお願いしており、自立を促すように努めている。食欲がない利用者に対しては、職員で話し合い、刻み食などに変更するなどの工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに必要な栄養、水分量を把握し、充分摂取できるよう、環境を整えたり、声かけを行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを充実させ、訪問歯科を積極的に利用したりし、口腔内環境を整え、いつまでも清潔でいれるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりに応じた排尿回数、排便パターンを把握し、利用者の排泄介助を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけによりトイレ誘導や見守りを行うことで、排泄の自立に取り組んでいる。困難事例にも受容的な対応に努めており、課題解決に組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘体操を毎日実施したり、便秘になる要素を取り除く工夫をしたり、緩下剤を内服したりし、自然排便に繋げるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調を見ながら、清潔を目的に入浴を楽しんでいただけるようしている。また、利用者の気分や体調にも配慮して、シャワーや清拭での対応を行っている。	入浴を拒否される利用者に対しては、時間をおいて声かけをしたり、声かけをする職員を変更するなど、働きかけを工夫している。どうしても難しい場合は、清拭や足浴等に変更して、清潔の維持を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動量をその方に合わせ軽く疲れる程度に運動したり、休息を挟んだりしながら、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが正しく服用できるよう、直接薬を手渡し、服薬までを見届けるように気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが得意としてきたことや、好きなことを日々のレクリエーションを通じて、生活の一部にしていけるよう、工夫しています。また、参加する喜びや達成感などを感じていただけるよう考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、散歩、ドライブなど季節に応じて、外出先を変えたり、家族参加型の外出を取り入れたりしていますが、外出する事で、帰宅願望が強くなる方もおり、課題にもなっている。	介護度の重い利用者が増えたことで、外出が困難な利用者が増えているが、季節感が味わえるよう、散歩やドライブ、家族参加による外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いとして現金を預かり、生活に必要な日用品や嗜好品の購入などいつでも自由に使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が電話をかけたいときはいつでも利用できるようにしている。また、月に一回絵手紙を書き、ご家族や親しい友人などに郵送している。また、返事が返ってきて、喜ばれる様子も時々見られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計や、空気清浄機、冬季はこたつや加湿器などを設置している。天窓からの換気や天井のシーリングファンで快適に過せるようになっている。また、季節の花や、装飾品、環境などで季節を理解して頂けるようにしている。	空気清浄機や加湿器、天窓、天井のシーリングファンを設置し、換気や採光への配慮を行っている。また、季節の花や装飾品などで、季節感が味わえるような工夫がなされており、利用者から喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リラックスできる居間、和室が確保されている。また、プライバシーが保護されるよう、全室個室となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、思い出の品などを持ち込めるようにしている。施設で作成した作品や写真を飾ったりしている。	入居時に使い慣れたものを持参されるよう家族に説明しており、使い慣れた家具や寝具が持ちこまれている。利用者の作品や家族の写真等が飾られており、安心して生活ができるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のドアに表札をつるし、他者の居室との区別をつけたり、トイレに張り紙をして、施設でも我が家のように過せる空間を確保している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を意識し、共有しあっている。毎朝読み上げ、一日の始まりに再度認識できるようにしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同地区の保育所や、自治会の行事に積極的に参加し、社会活動を盛んにしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に認知症サポーター養成講座に参加し、認知症についての知識を高めている。その知識を生かし、ご家族の相談に添えるようにしている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、助言やアドバイスを利用者の支援に反映させている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	提出書類があるときは、必ず出向き、また、情報交換会などには積極的に参加し、交流を図るようにしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、定期的な会議を開催し、拘束のないケアを実践できるよう取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から、職員同士で勉強会を開き、職員一人ひとりが意識し、虐待防止に取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などで外部の方に講習して頂いたり、必要性があるときは、すぐにサービスが利用できる体制をとっている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族に契約書を用いて十分な説明を行い、納得して頂いた上でサービスを利用してもらっている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、また、利用者にアンケート調査をしながら、できる限り、要望に答えられる様にしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議の開催や、全体会議の開催、ユニットごとに行っているグループミーティングを開催し、意見交換できる場を設け、決定事項を遂行したり、運営に反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と個別面談を行ったり、職員が働きやすいよう環境を整えたり、また、上部との架け橋になるようにしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修会に参加したり、教育委員会を中心に勉強会を設けて、学習したり、スキルアップできる場を設けている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と情報交換を行ったり、共有したりし、双方がよりよいサービスを提供していけるよう努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が何を求めているのか、明確にする為と同じ視線に立って、相手の気持ちを考慮しながら、関係を築いている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と同様、共感を持ち、不安な要素を受け入れ、安心した生活が営めるよう、助言したりし信頼関係を築いていっている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の抱えているニーズに迅速に対応できるよう、話し合いケアプランに反映させている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に寄り添い、個々のペースに合わせたケアを行い、家族に近い存在になれるような介護を目指している。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、施設での様子をご家族に報告したりしながら、ご家族とともに支援していけるような関係を築いている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までに構築してきた人間関係を維持するため、関わりあえる時間を作ったり、住み慣れた場所や環境を忘れないでいられるような支援をしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護者が利用者の中に入り、距離を縮めるようなコミュニケーションを図ったり、間接的なフォローを行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が完結しても、気軽に尋ねてきていただけたり、今後の相談に乗れるような関係を築いている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに声を掛けたり、コミュニケーションを図る中で希望や意向を模索し、ケアに繋げている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの基本情報やバックグラウンドで過去の暮らしを把握したりしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察を繰り返し、情報交換しながら、残存機能の維持をしたり、利用者に見合ったケアが提供できるようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループミーティングなどを利用し、ケアカンファレンスを行いニーズを探したり、支援計画を立て、介護者が統一したケアができるよう話し合っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の施設での暮らし、会話、心身状況などを把握し、記録することで情報の共有ができるようにしている。課題が見つければ、話し合い、良いサービスが提供できるよう努めている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズ、利用者の日々の変化に対応できるように考え方、行動が画一的にならないよう努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている社会活動など管理者を中心に職員間で検討し、参加できることを前提ににして取り組んでいる。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族の意向を優先するようにし、医療機関と連携をとりながら、適切な医療が受けられるようにしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時の診察の記録、医師からの指示事項、など看護師を通じて、伝達し職員全員が統一した対応を取れるよう、マニュアル化している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関に出向き、ソーシャルワーカーや、担当看護師と情報交換を行い早期退院に向けた話し合いを行っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族の意思を尊重し、最期まで安心して生活できるよう、週末期ケアのあり方やチームとして何ができるのか十分に話し合っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化し、職員全員が迅速に対応できるよう、勉強会を開いたり、マニュアルを掲示したりしている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者、防災訓練担当者を中心に防災衣訓練を定期的に計画し、実践を行い緊急時に備えられるようにしている。隣接する同一法人施設へ応援を要請したり、自治会の方に訓練の予定をお知らせし、協力を仰いでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを認識し、一人ひとりが充実した生活を営んでいけるよう、言葉かけやケアを行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には、自己選択を優先し、それが困難な方には介護者が希望を聞くなどして、自己決定に繋げる支援をしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の状況を把握して、できるだけひとりひとりの希望に沿った支援ができるように努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スキンケアや化粧など自由なおしゃれを楽しんだり、理美容サービスを利用できる機会を確保し、清潔で快適な身だしなみができるよう支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの咀嚼力、嚥下力を理解し、その人に見合った形状で提供している。また、盛り付けや食器の選別など見た目も大切にしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった食事で栄養が補えない場合、栄養補助食品を用いたり、別の形で水分を補えるように支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを習慣化させ、清潔を維持したり、訪問歯科診療を利用したりし、いつまでの口の健康が維持できるよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄回数や排泄パターンを把握し、個々に応じた排泄介助を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる要因を取り除くようにし、便秘解消体操などを実施し、腸運動を促したり、緩下剤を服用したりし、不快なく排便ができるよう支援している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調を把握し、快適に入浴できるよう支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や空調で温度管理をしたり、使い慣れた寝具を積極的に使用することで安眠を促している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正しく服薬ができるよう管理し、手渡し時も、確実に服薬できているかどうかの確認を徹底している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが得意とする事、できる範囲での手伝い、長年、仕事で取り組んできた事柄などを生かした役割が持てるよう支援している。また、レク活動も画一的にならずに楽しめるよう、サポートしている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の草花を見たり外食を楽しんだり、施設に住居が移っても、屋外の事が把握できるようしている。また、ご家族に連れ出したいだったりし、外部との接触を絶たないようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かったお金を利用者に代わって管理し、必要な物品がいつでも購入できるよう支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があったり、外部から利用者宛に電話があったりすると、取り継ぎ会話が楽しめるよう援助している。また、毎月、絵手紙レクを行いご家族や大切な方へ手紙を出している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、常に利用者が安全に快適に暮らせるよう配慮している。照明も目に刺激を与えずすぎないように間接照明を中心に取り扱っている。季節を感じ取れるよう、壁などに飾りつけなどを行っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室に入出入りできたり、他者と楽しく会話をしたりできる空間を設けている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを居室に置き、自宅で過ごしていた環境に近づける。また、掃除を充実させ、常に居心地のいい空間を提供できるように支援している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物になるようなものを取り除いたり、一人ひとりの状況を把握し、安全に暮らせるよう配慮している。